

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和5年12月号

頑張る産地



「ユリ研究会いんば」の取組 ～若手生産者によるユリ産地の活性化～

印旛農業事務所改良普及課
普及指導員 榎本 美菜子

ユリ切り花の周年生産を行う印旛地域では、若手ユリ生産者8名が勉強会組織を平成28年に立ち上げ、様々な取組みをしてきました。メーカーとの共同試験による鮮度保持技術の確立や、市場との連携によるPR活動を重ねたことにより、市場や小売から“選ばれる産地”として発展しています。

1. 「印旛のユリ」について

印旛地域は全国でも珍しい周年栽培を行うユリ切り花の産地です。大消費地東京に近い立地を生かして、鮮度の高い高品質な大輪系のユリを年間約80万本50品種出荷しています。

2. 「ユリ研究会いんば」の活動について

(1) 市場との連携

○品種選定に向けたほ場巡回

印旛地域の栽培環境に適した有望品種の選定を目的に、毎年250品種の試験栽培を行っています。さらに、開花期には市場関係者を交えたほ場巡回を開催し、販売担当者や小売業者と意見交換をすることで、市場ニーズのある品種を絞り込み、翌年の作付計画の検討材料としています。



市場の販売担当者と意見交換する生産者

○サンプル展示

蕾の状態出荷されるユリは、開花後の色味や香りが分からず買い付けしづらいという課題がありました。そこで、市場に展示コーナーを設けてもらい毎月定期的にサンプル品を展示しています。

(2) 鮮度保持メーカーとの連携

切花後の葉の黄化抑制を目的として始めたのが切り花鮮度保持剤メーカーとの共同試験です。平成29年から4年の歳月を経て、ようやくユリの葉色・花の開花期間を維持できる前処理剤と使用方法を選定することができました。さらに令和5年9月からは

1剤を加えて、より長期間ユリを楽しんでもらえるよう改善し出荷を始めています。前処理済みのものには、出荷箱へのスタンプとチラシを同封し、実需者へアピールしています。



出荷箱へ同封するチラシ

(3) 球根輸入業者との連携

海外での球根の生産状況の把握や現地での栽培試験結果の共有を目的に、オンラインで遠方の球根輸入業者と意見交換をしています。昨今の為替事情や球根の作況、耐暑性品種についての情報収集に努めています。

3. 取組みの結果

積極的な関係づくりを継続して行った結果、スーパーや花屋から契約出荷を持ちかけられる生産者が見られるようになりました。活動開始から7年の時を経て、“選ばれる産地”に発展しはじめているところです。

4. ユリ産地の発展に向けて

産地では今も様々な課題を抱えています。特に為替の影響で球根経費が高額となり経営を圧迫している状況にあるため、今後は原価計算を行いながら、再生産可能な価格を設定していく必要があります。そのほか、付加価値をつけられるような様々な実証に取り組んでいます。今後も関係機関と連携しながら選ばれる産地づくりに努めていきます。



土壌診断で施肥コストの最適化を

全農千葉県本部営農支援部営農支援課
営農技術センター 森下 立基

近年、円安や原油価格高騰等を背景に肥料価格は急騰しています。土壌診断により、ほ場の養分状態を把握し、施肥コストの最適化を図りましょう。

1. 土壌診断のメリット

土壌診断により、土の養分状態を把握することには多くのメリットがあります。

例えば「長年、土の養分状態を把握せず、施肥量を変えずに栽培する」「堆肥を施用したが減肥を行わない」等の管理を続けていると、ほ場の養分バランスが崩れ、やがては農作物の生育に影響がみられるようになってきます。

土壌診断により、土壌中の肥料成分含有量を数字で把握することで、ほ場にあった適切な施肥を行えます。また、品質向上や施肥コストを見直すことにも繋がります。

2. 土壌診断結果にもとづく施肥量の削減

リン酸は肥料の三大要素の一つであり、作物の開花・結実にかかわる重要な肥料成分ですが、土壌診断結果を分析すると施設ほ場を中心に

リン酸が過剰傾向なほ場が散見されます。

図1が令和3年度の千葉県内の作物のリン酸傾向を示したグラフになります。ネギ、トマトともにリン酸が多く必要な作物ではありますが、千葉県の基準値の上限である100kgを超過するほ場がネギでは約30%、トマトでは約80%ありました。

リン酸は過剰症が出づらいため肥料成分ではありますが、基準値を超えるリン酸の施用は作物への効果も少ないため、リン酸減肥をすることで効果的に肥料コストを削減できます。

3. 土壌診断は土の健康診断

土壌診断は土の健康診断です。定期的の実施し、ほ場状態を把握することにより、施肥コストの見直しを図りましょう。

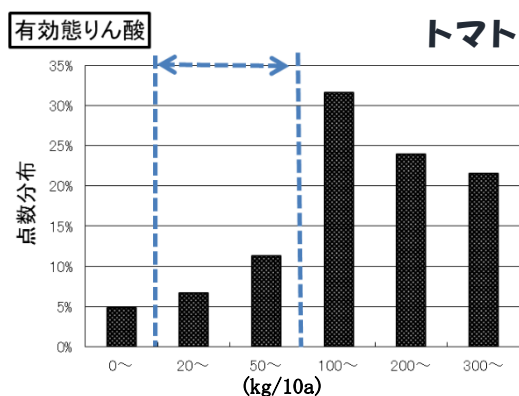
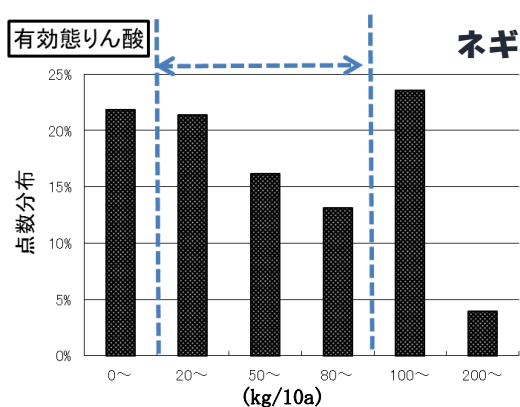


図1. 令和3年度千葉県内ネギ、トマトのリン酸土壌分析傾向
(破線矢印が基準値の範囲です)



生産者と実需者を結ぶ植木見本園

公益社団法人千葉県園芸協会
種苗センター長 柴田 忠裕

本県は全国有数の植木産地ですが、以前は堅調であった生産販売や植木輸出も陰りがみられます。立て直しを図るうえで近々に解決すべき課題は、生産者と流通・施工関係者との情報交換不足、即ちミスマッチにあります。そこで情報交換の場として「生産者と実需者を結ぶ植木見本園」を県の植木振興対策事業の一環として種苗センター内に開設しましたので、その経緯を解説します。

1. はじめに

元来植木生産品目は、生産者の好みやその時点で流行のものを選ぶことが多いのですが、植え付け後はただ買い手を待つのみで、結局買い手がつかず不良在庫として残ってしまうことが多いのが実情です。一方、造園設計者やガーデナー等の実需者は、卸業者へただ発注するのみで、現物が意図したものと異なったり、特性を把握せずに計画に盛り込んでしまい、適材適所の植栽にならない場面が、多々見受けられます。

これらの諸問題を解決するため、3年前に見本園を、長生村にある千葉県園芸協会種苗センター内に開設しました。モデルはオランダボスコープにある樹木見本園です。ここでは生産者が育成した新品種やこれから販売予定の品種が植えられ、来園者に提案することで、需要動向の見極めに使われており、その中で来園者の評価が高いものが次世代の植木として流通することになります。また逆に、実需者にとっても、数年間植えられた植物の将来像をここから見て取ることが可能で、設計を立てる上で参考になります。

2. 展示ブースの設置

種苗センター内に4×3mのブースを21区画用意し、生産者にこれから販売したいもの、売れるか見極めたいものを植栽して、実需者に見てもらうことにしました。さらに、生産に対する要望を聞く機会を年に数回設け、情報交換も行っています。これにより生産者は、直接的な要望を聞くことができ、需要が高い植木生産に反映させることができます。また生産者にとってここは、出口調査の場です。ここを活用し、広くユーザーに向けた情報を発信してもらいたいと考えています。他方、設計者等には、

県内の生産状況や樹木の特性を知る場として活用してもらい、生産者と実需者のミスマッチの解消に役立ててもらいたいと考えています。

3. これまでの成果

実際、ここを視察した某大手住宅メーカーは、展示された長尺植物を見て、それを壁面緑化用の標準植物として選定しました。また某コニファー生産者は、大手通販業者と年間数回の取引が成立したと聞いています。さらに、枝垂れ赤松に感銘を受けた設計者は、某デパート日本庭園の主木として植栽し、国土交通大臣賞を受賞しました。これらのことから、これまで見る機会がなかった実需者が、目の当たりに実物を見ることで、生産現場と実需者の距離がかなり縮まったことが分かります。

4. おわりに

以上、実際に植木を見て情報を交換し、お互い理解し合い、さらなる需要の拡大につなげていってほしいと願っています。最後になりますが、視察希望の方は、是非事前に連絡いただきますよう、お願いいたします。



見本園全景 2022.9



秋まき冬どりダイコンの根重予測モデルの開発

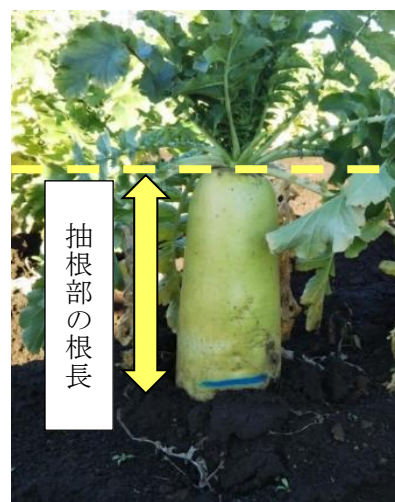
千葉県農林総合研究センター最重点プロジェクト研究室
上席研究員 小林 孝太郎

9月播種の品種「冬自慢」の根部の生育肥大と関係性の高い生育指標を用いて、根重の予測モデルを開発しました。本技術を用いることで、実際に収穫しなくても根重を推定できるので、生育時期を判断できます。

1. はじめに

千葉県のダイコンは、作付面積が2,570ha（令和3年）で全国3位となり、県内各地で秋まき栽培が行われています。しかし、近年は降雨による播種作業の遅延や、生育期間中の天候不順により生育が停滞し、計画的に収穫できない年があり、事前に収穫時期や収穫量を把握し、出荷戦略に役立てたいと産地から要望が上がっています。そこで、県内全域で作付けされている青首ダイコン品種「冬自慢」（（株）サカタのタネ）を用いて、根部の生育肥大に関係する生育指標を解析して、根重の予測モデルを開発しました。

この解析結果をもとに、積算温度と抽根部の根長から根重を予測するモデルを作成しました。予測モデルの精度は高く、推定値の実測値との誤差は100g程度です（図2）。



出荷規格到達時の
抽根部の根長

2. 根重の予測モデルの開発について

ダイコンの根部の生育肥大は、日平均気温の積算温度（以下、積算温度）と関係があります。「冬自慢」は、露地とマルチ栽培ともに約800℃で肥大を始め、約1,200℃で出荷規格に到達します（図1）。ただし、出荷規格到達時の抽根部の根長（地面から出ている長さ）には、若干の差が認められ、露地栽培が12～13cmに対してマルチ栽培が14～15cmと長くなる傾向がみられます。

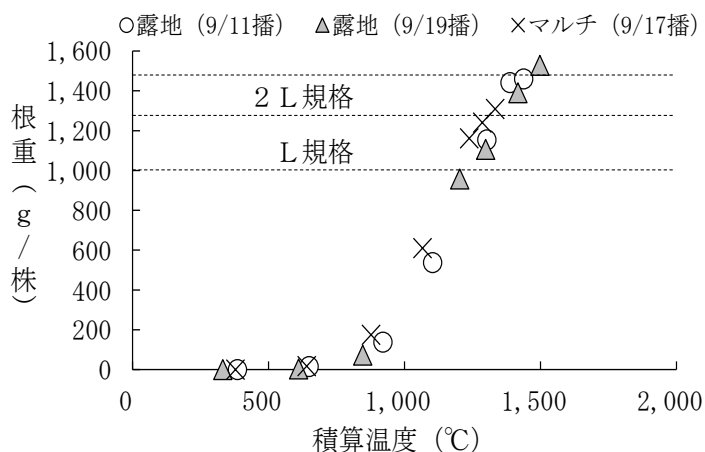


図1 根重と積算温度の関係（令和元年）

■実測値 □モデルの推定値

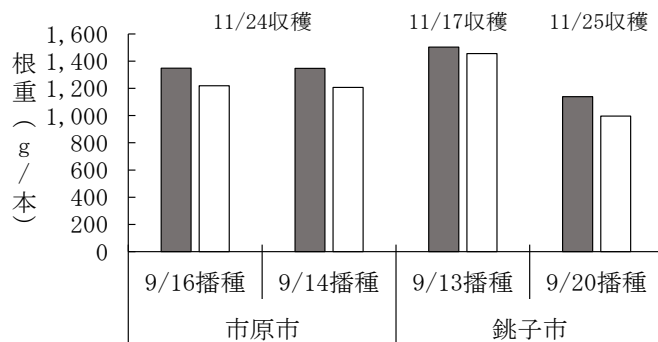


図2 現地での検証結果（令和3年）

注）モデルの推定値は、現地は場近隣のアメダス地点の積算温度と、抽根部の根長をもとに算出した。

3. おわりに

この予測モデルは、現在、栽培方法や品種による違いなどを精査するとともに、収穫時期も推定できるように改良を加えております。今後、この技術がダイコン産地の出荷戦略に役立つよう、さらに研究を重ねます。



企業と連携した県産花きのプロモーション

千葉県農林水産部流通販売課首都圏マーケティングセンター
副主査 飯生 智久

流通販売課首都圏マーケティングセンターでは、日本電気(株)社員食堂において、食堂メニューへ県産青果物を提供し、「千葉の旬」をPRすると併せて県産切花を展示・販売し、県産花きの魅力をアピールしています。

流通販売課首都圏マーケティングセンターでは、首都圏量販店における県産農産物の魅力発信を目的に、JA全農ちば、卸売会社と連携し、「千葉県フェア」を実施していますが、令和3年度からは、日本電気(株)社員食堂でのフェアも行っています。

令和3年度に2回、令和4年度に4回実施し、多くの社員の方々に、「千葉の旬」の農産物を味わっていただいています。



令和4年度には、新たな取組として、県産切花が多く出荷される2月に、認知度向上と販売促進につなげるべく、カラー、カーネーション、ストック、キンギョソウ、キンセンカといった千葉を代表する切花を使用したフラワーアレンジメントの展示を行いました。

また、社員食堂脇の売店にて、旬を迎えるカラー「ウェディングマーチ」の販売も実施されました。



加えて、観光誘致促進課とも連携し、春の房総半島へ足を運んでもらうべく、観光名所をまとめたパンフレットや観光マップを配架しました。

令和5年6月のフェアでは、初夏の千葉県を代表する切花であるヒマワリを展示・販売するとともに、海の日、夏休みを控えた房総半島に観光へ誘うパンフレットやマップ等を配架しました。



今後も青果物のPRと併せて全国2位の産出額を誇る県産花きの魅力発信に努めていきます。

第44回千葉県フラワーフェスティバル

年に一度の“ちばの花の祭典“が開催されます。

会場には千葉県産の切花、鉢花、観葉植物、洋らんが展示されます。ひと足早い春の訪れをお楽しみください。

会 期 (一般公開)
令和6年1月7日(日)～8日(月・祝)

会 場 (株)そごう・西武
そごう千葉店 6階催事場
(JR、京成、千葉モノレール「千葉駅」
から徒歩1分)

内 容 花の品評会(出品点数約400点(予定))
各種団体による展示、花のディスプレイ、
花の体験教室、即売会など



前回(第43回)メインディスプレイ

(問い合わせ先)

千葉県農林水産部 生産振興課
TEL : 043-223-2871

令和6年度農業者養成研修(前期)研修生募集

県内で新たに就農する方や、既に就農している方を対象に基礎的な農業知識・技術を習得する研修を開催します。

研修期間及び内容(令和6年度)

- (1)基礎研修:4月11日(木)～6月28日(金)
・講義、農場実習(野菜・花きの栽培管理)、
プロジェクト実習等
- (2)専門研修:4月11日(木)～9月30日(月)
・基礎研修に加え、農家実習等
- (3)部門別研修:4月11日(木)
～令和7年3月14日(金)
・専門研修に加え、農家・プロジェクト実習
を継続

応募受付期間

令和6年1月9日(火)～1月31日(水)
(消印有効)

選考方法 書類審査、面接

受講料 1か月3,300円
(教科書代等、別途実費3万円程度が必要)



農場実習 ネギ定植

(問い合わせ先) ※詳細は農業大学校農業研修科まで

TEL : 0475-52-5140 FAX : 0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>